

## 平成29年度第2回京丹波町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成30年2月21日（水）  
開会：午前9時30分 閉会：午前11時40分
- 2 開催場所 地域交流センター
- 3 構成員出席者 7名  
太田昇町長 松本和久教育長 藤田道子教育長職務代理者  
津田勝二委員 竹吉美公委員 上田明成委員 竹内裕子委員
- 4 事務局出席者 11名  
中尾総務課長 西村教育次長 山根社会教育課長  
西田参与 片山教育振興室長 徳島学校教育課長補佐  
上林学校教育課長補佐 木下社会教育課課長補佐  
原澤総務課長補佐 小林総務課係長 浏览総務課主事
- 5 傍聴者 なし
- 6 会議の概要

〈開会：午前9時30分〉

### ○開会

太田町長挨拶  
松本教育長挨拶  
町長、教育長及び委員自己紹介  
丹波ひかり小学校日下部校長挨拶

### ○協議事項

#### (1) 丹波ひかり小学校授業参観

授業参観概要について、事務局より説明。

- ・ 4年生  
インテリジェントホールにおいて、テレビ会議の様子を参観。
- ・ 6年生  
体育館において、情報機器を用いた体育の授業を参観。
- ・ 2年生  
教室において、機器を用いた発表会を参観。

## (2) 京丹波町の教育について（意見交換）

平成29年度における京丹波町教育委員会の重点事項（学校教育：認定子ども園開設準備事業、学校教育情報化機器整備事業、蒲生野中学校校舎棟トイレ改修事業、小学校・中学校通学バス負担金無償化事業 社会教育：新成人による成人式開催事業、社会教育委員の活動、伝統文化の継承、京のまなび教室推進事業、地域学校協働活動事業、ホストタウン構想事業、京都トレーニングセンターとの連携事業、）、学びを育む京丹波町メソッドに基づく授業改善、教職員人材育成及び各校園の特色づくり（須知幼稚園：主体的に遊ぶをテーマにした環境整備に関する研究・竹野小学校：学校を核とした地域創生・丹波ひかり小学校：学力向上システム開発校としての取組み・下山小学校：ふるさと学習推進校としての取組み・瑞穂小学校：英語教育の実践推進・和知小学校：京丹波森の学びモデル事業推進校としての取組み・蒲生野中学校：学力向上システム開発校としての取組み・和知小学校及び中学校：小中一貫教育に向けての調査研究）について教育長より説明。

### 【事務局】

京丹波町の教育について、ご意見等がございましたら、よろしく申し上げます。

### 【町長】

パソコンを使った授業について、子どもたちの中にはそういった環境に慣れている子や不慣れな子がいると思うが、どの辺りに標準を合わせて授業を進められているのか。

もう一点は、有害サイト、ウイルス、フェイクニュースなどパソコンからの情報が全て正しいとは限らないなかで、情報リテラシーについて、先生方の研修はどういう風にされているのか。

### 【教育長】

どのレベルに合わせているかという点について、ICTの狙いとするところは、いわゆる「情報機器そのものを学ぶという部分」と「情報機器をツールとして使うという部分」というふたつの側面があり、基本の問題である「基礎的な情報機器の使い方」というところは小中それぞれの段階に分けてしっかりと指導している。

ICTを使って京丹波町の授業改善を進めるなかで、特に「思考・判断・表現」についてこの3つのレベルでそれぞれ教育をしている。自分の考えを頭の中で整理して、機器を使って表現をする。やってきた内容はこれまでと変わらないが、機器を使うことでより効果的になると考えている。情報機器を授業改善のツールとして、今後においても活用したい。

### 【丹波ひかり小学校校長】

ご質問のあった有害関連サイトに関しては、かなりフィルターがかかっている。アクセスポイントを持って来ることで、地域交流センターや体育館等においてネットを繋げることができるが、外に持って行った場合は、一切繋がらないようになっている。Yahoo に関しても子供用になっているので、検索をかけても有害サイトには繋がらないようになっている。職員の研修については、平成12年頃に情報機器が入った時から積み上げてきてい

る。今回の機器更新を機に、12月にも業者に来ていただき、機器の使い方を教えていただいた。情報リテラシー、モラルに関しては、年に複数回に分けて子ども達にも指導している。高学年には、スマホに潜む危険性についてもあわせて指導している。

#### 【教育長】

平成30年度においても、教職員を対象とし、ツールとしての機器の使い方に関する研修を行いたいと考えている。

#### 【委員】

さまざまな取組みが京丹波町の推進プランで挙げられており、色々なことが出来てきているということがよく分かった。教育に関する良い変化が具体的にあればなるほど、保護者の方の目に見えて分かる。京丹波町の教育で行われていることが、具体的に教育現場から家庭に発信されることで、保護者の方にご理解いただき、更に協力していただけるという良い関係が築けているということを感じている。

また、コンピューター教育については、様々な環境のなかで、周りの先生方の力が加わり、これらが更に発展していくという未来を見据えたときに、本当に心がわくわくする。情報機器の正しい使い方や広げた使い方、外部とのやり取り、教室の中での先生と子どもたちとのやり取りなどについては、これから更に拡大されていくと思うが、ひとつ心配するのは、昔ながらの教育である「考えて、書いて、表現するという頭の使い方」に対して、パソコンやスマホでの「目からのみ入ってくる情報」が、今後の子どもたちの成長にどういう風に影響を及ぼしていくのかという点である。今後においても、情報機器等の良いものは、良い使い方をしていただきたいと感じている。

#### 【委員】

ひかり小学校の3つの授業形態を見て、新しいやり方が現実に進んでいるなど感じたが、最後に2年生の「いのちの学習」を見せてもらい、やはり立ち戻っていくところはそういうところでなければならないと感じた。今日はパソコンの新たな展開に目が一番先にいくが、義務教育である以上、基礎・基本から目を遠ざけてはいけない。子どもたちにとって、今の時期に本当に徹底して養っていくのは何かという視点がないと、どうしてもパソコンというアイテムそのものが目的のようになってしまい、パソコンが堪能に使える人であるが、隣の人とのコミュニケーションが充分出来ない等、違和感のある人間育成に陥る可能性があると感じている。

もうひとつは、先ほどたくさん京丹波町における教育の豊かな挑戦について説明をしていただき、色々なことをやっていて、なんて豊かな教育なのだろうと感じたが、これも逆の見方をすると、たくさんというのはいい事なのかどうなのかということもある。条件が限られているなかで優先順位をつけるとするとどうなのか、それから、どれもこれも挑戦していくなかで最後にまとめていく形はどうなのか等、その試算がないと、たくさんやったのだけれども、その入り口がいっぱいあって最終的にたどり着くところがどこなのかということを見失いがちな時代ではないかを感じる。

魅力ある教育、魅力ある学校づくりということで、「魅力」というのは常にどんなジャンルでも必要だと思う。企業の経営と同じように、学校にも見失ってはならないことがあるという風に思っている。一つ目は「有益性（リーズナブル）」である。保護者や子どもが、学校に行ってすごく得になる、自分たちの為になる等、そういう感覚を持つことはすごく大事で、そのメリットを分かりやすくはっきり示すということが、まず重要であると考えている。二つ目は「ブランド」である。あの学校はやっぱりいいなと思うためには、時間がかかると思う。「伝統性」や「先進さ」の両方が大事であると思うし、その伝統を支えるのは先生だと考える。感覚やセンスなど、今は身につかなくても、そこを目指しているかどうかはすごく大事なところで、そういうものを見失っているとなかなか魅力ある教育というものは作れないと感じる。三つ目は「フレンドリー」である。日本語でいえば「人情」。学校は、大事な子どもたちを預かっているのだから、親しみのなかで信頼関係を築くことができているかどうかは大事である。「アナザーファミリー」という言葉をよく使っていたが、もうひとつの家族があっていいのではないかと思う。家庭は第一の家族であるけれど、学校も他人の集まりということではなく、そこには信頼があり、家族のような部分がある。そういうところが日本らしい教育の良さではないかなと思う。いわゆる兄弟的な繋がり。それがあって初めて「学校」というものが魅力あるものになっていくのではないかという思いを常に持っている。

京丹波町の少子化は深刻な問題であるが、小回りが効くところを活かして、竹野小学校のような魅力づくりをやっていくという動きと、ひかり小学校のように竹野小学校と違ったような新しい教育の展開という動きもある。政策的なことをぜひ教えてほしいと思う。

#### 【委員】

今日は、ひかり小学校の授業を見せていただくことからスタートして、教育長からは、平成29年度の様々な教育委員会を中心とした取組みを説明いただいた。私たち教育委員は、それぞれ何かの度にお話を聞き、確認しつつ、また、なかには意見を申し上げながら協力をしつつ進んできた内容であったなということで、1年を振り返るにふさわしい機会であったと思う。京丹波町は、たくさん取組みが出来る措置がある町なのだと感じている。やはり、これというものも必要であると思うが、色々な面から色々な取組みが出来るということが、京丹波町の教育の良さではないかと思う。今日、ひかり小学校で機器を活用した授業を見せていただいた。タブレット端末の導入ということで、今後、それぞれの教室において無線LANを使い、ネット環境が整ったなかでのタブレットを使用した授業が展開されていくのだが、今日見せてもらった3つの授業については、随分前から行ってきた教育機器の活用であると思った。テレビ会議については、総合教育センターのテレビ会議システムを使って14、5年前から取り組んでいる学校に勤務した経験もあるので、次は、それをどう新しいこととして効果的に活かしていくのかという、新しい視点での教育機器の活用についてもこれから研究していく必要があると感じた。2年生の授業では、先生のパソコンからデータを送って、大きな画面に拡大した写真が提示されていた。それに似た

方法は、以前から使われていたが、ひかり小学校の素晴らしさは、機器を活用しながら、子どもたちの言葉がすごく豊富だということである。それは、ここ数年で「言葉の教育」に取り組んでこられた成果が2年生の段階で発揮出来ているということだ。発表している子どもたちの作文は、きちっと文章が組み立てられているし、質問した子どもたちもあの場であれだけの言葉を使って質問ができる。答える子どもたちも上手に質問に答えており、言葉で自分の思いを表現するという力がすごく身につけていると感心した。新しい機器を使いつつも、自分の思いを言葉で伝えるということをますます大事にしていく必要があるなと感じた。

11月に教育委員の研修で、岐阜の長良西小学校と長良中学校に行った。そこは「教育イノベーション特区」であり、長良西小学校は先生の研修校である。平均年齢が30代とおっしゃっており、研修をする為に県外から先生方が集まってきておられる。その授業がすごく温かみのある授業だった。図形の合同の授業で、まったく教育機器は使わないのだが、先生が手作りした大きな図形を黒板に貼って、実際に子どもたちが動かすことによって合同の条件を探していくという内容であった。それは以前から取り組んでいた授業内容であるが、ものすごく子どもたちが集中して、自分の思いを表現していた。先生と子どもたちのそういう姿がかえって新鮮であると感じた。イノベーション特区といわれる先進的な学校であっても、やはり先生方の手作り感や、授業に向けてどう準備してきたか、ということの大切さを改めて学ばせてもらった。皆さんがおっしゃったように子どもたちにどういう力をつけていくのかということを決断して考えていきたい。先生方、地域の方々、子ども達との繋がりを大切にしながら、30年度も歩んでいきたいと感じた。

#### 【委員】

まず、今の子はICTを活用した良い授業を受けているということを感じたし、びっくりした。学びのあり方が主体的、多様的に大きく変わったと思うし、先生も生徒も初めての体験であると思う。これからの学びのひとつの方法としてICTの活用があるのではないかと思う。学校現場としては新しい学びの移行期に、先生方が子どもたちを上手に導いてあげるのが大切ではないかを感じる。

#### 【委員】

今日の新しい機器を使った体育の授業で、ボールの扱い方について、自分の動きを映像で確認できるのは良いことだと思った。私自身小学生にホッケーを教えていた経験がある。見本の動きを人に見せて、人がしていることと自分の動きがどう違うのかを考えることが、なかなか難しいなかで、それを客観的に見られるのは、子どもたちが動きの違いを分かりやすく捉えられるということで、効果的に活用されていると感じた。今後も機器の上手な活用をすすめていただきたい。子どもを持つ親として感じることは、大阪の池田小学校の事件の頃から子供の安全を守らなければならないということが最優先されており、そのなかで、学校にフェンスが出来たり、校門がしっかり閉まっているということが増えてきたということ。子どもの安全を守るためには、地域との連携もしなければならないが、地域から学校に行きにくいと感じたことがある。上手く学校と地域との壁を取り除くことが出来れば、お互いに

良いのかなと思う。子どもたちも地域の一員であり、今後その地域のなかで生活していく上で、出来れば京丹波町としてこの先も地域を好きになってもらうためには、地域の方も一緒に学んでいただきながら取組みをしていただくということで、子ども達との交流を大切にしていただけたらと感じた。

#### 【教育長】

今日は情報機器を見ていただいたが、情報機器を使うこと自体を目的化しないで、これまで機器を使用しないでやってきたことを、機器を使うことで更に効果的に活かしていきたい。やはり教育の本質は、学ぶ者と指導する者の相互の信頼関係のなかで、人を育てることだ。そのことを真の学びであると考え、学校のなかの「ユニバーサルの視点」、誰もが安心できる相互の信頼関係を基盤に更にしっかりと深めていきたい。

#### 【町長】

2年生の「いのちの教育」の授業で、子どもたちが自身の生まれた時の話をしている姿を見せていただいた。この授業は、子どもたちが、どんな風に生まれてきて、みんなからどんなに待たれて、愛されて可愛がられてきたかということ自分で語り、みんなに認めてもらうことによって自信や誇りを持つことを目的として取組まれていると思う。京丹波町自体も、京丹波町に生まれたことに対する自信や誇りを、どうやって子どもたちに持たせるかということが、非常に重要だと感じている。先日、下川町に行った際に、オリンピックでの葛西選手のジャンプを応援してきたが、町民の皆さんが非常に自分の町に誇りを持っていると感じた。下川町自体、「持続可能な開発目標」の総理大臣賞に表彰されたこともあり、町としても自信を持てるような出来事もあった。京丹波町では自信を持って、「こんなにいい町だ」と言い切れていない気がする。先日、ロケ地誘致の事業で観光大使の榎木孝明氏に来ていただいたが、榎木氏はいつも京丹波町のことを「こんなに素晴らしい町はない」とおっしゃる。やはり我々自身もそういうことも思っていないといけないと感じている。

#### ○閉会

藤田職務代理者挨拶

〈閉会：午前11時40分〉